

暮らしの情報ページは主に公共機関などからのお知らせを掲載します。問い合わせや申し込みなどは➡の記号で表示します。市役所の代表電話番号は☎042-953-1111です。

杭州市訪問日程

と き	内容(予定)	宿泊
11月2日	成田(JAL)➡上海 (市内視察)➡蘇州	蘇州泊
11月3日	蘇州市内視察 蘇州➡杭州(列車)	杭州泊
11月4日	杭州市内視察・西湖 マラソン大会前夜祭	杭州泊
11月5日	西湖マラソン大会・ 歓迎レセプション	杭州泊
11月6日	杭州市内視察 杭州➡上海(列車)	上海泊
11月7日	上海市内視察 上海(JAL)➡成田	—

※日本航空利用、全行程食事付き、成田空港無料送迎付き



◀曲院風荷
杭州最大の公園で、5つのハス池に約100種のハスが見られます



昨年の西湖マラソンでは狹山市からの参加者が大活躍しました。写真左から普農さん(優勝)、笹原さん、配島さん(優勝)、寺田さん、棟方さん

友好交流都市の中国・杭州市で、恒例の「国際友好西湖マラソン大会」が開催されるのに合わせ、杭州市親善訪問団員を募集します。中国4千年の歴史と文化にふれながら、さまざまな市民交流ができる絶好のチャンスです。あなたも両国市民を結ぶ「親善大使」として一緒に参加しませんか！

とき11月2日(月)～7日(土) ※5泊6日 訪問先杭州、蘇州、上海 競技内容男女とも2.5km、10km ※ジョギング程度で参加は自由 定員40名程度 費用約13万9千円 申し込み9月1日(火)から国際文化課内狹山市杭州西湖マラソン親善訪問団実行委員会(先着順)へ

↓国際文化課へ内線379

●出会いとふれあいに満ちた浪漫の友好都市・杭州 親善訪問団員募集

市親善訪問団員を募集します。中国4千年の歴史と文化にふれながら、さまざまな市民交流ができる絶好のチャンスです。あなたも両国市民を結ぶ「親善大使」として一緒に参加しませんか！

●大規模な流通業務施設の立地区域が指定されました

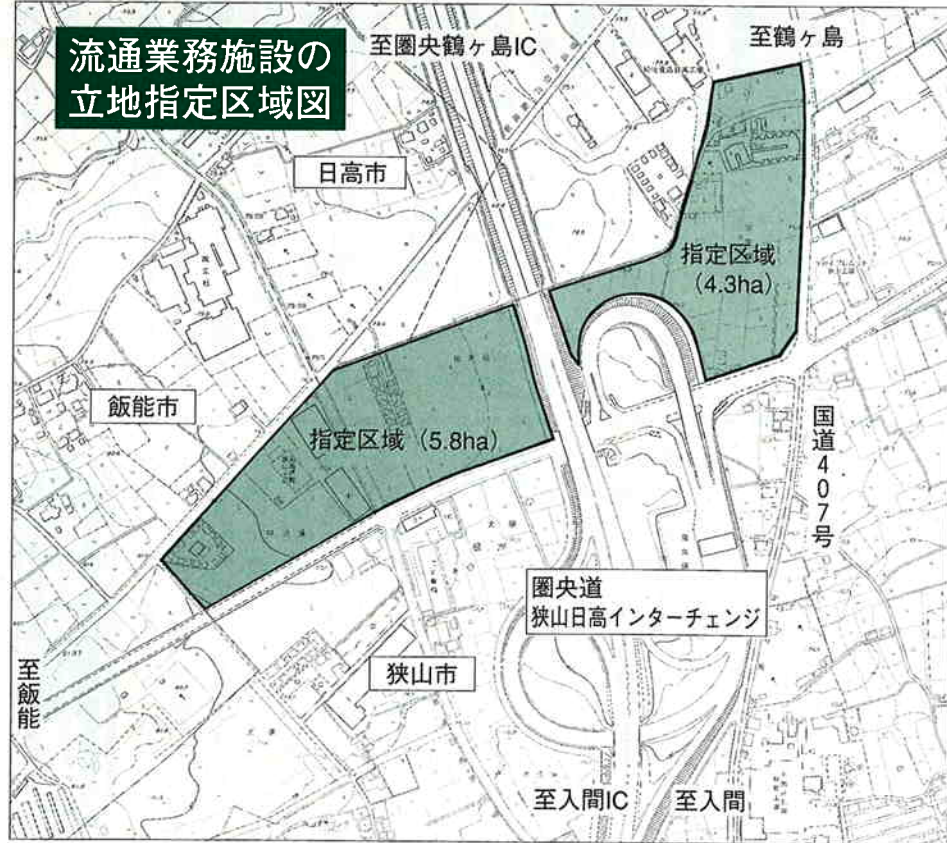
圏央道狹山日高インターチェンジ周辺において、大規模な流通業務施設の立地が可能となる区域が指定されました。

大規模な流通業務施設とは、一般貨物自動車運送事業の用に供される

施設、または倉庫業の用に供される倉庫で、積載重量5t以上の大型自動車がおおむね1日平均延べ20回以上発着するものとされています。

●問い合わせ許可基準など詳しくは建築指導課へ内線239

流通業務施設の立地指定区域図



暮らしの情報ページ



●節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミットに参加

(クールエナジー宣言・一部)

- ◆ひとりひとりが、できることから始め、地球を思いやるエネルギー使用を考えます。
- ◆ライフスタイルを見直し、無理なく、抵抗なく、自然体で省エネルギーを行います。
- ◆それぞれの地域にあった新エネルギーを選択し、分散型エネルギー供給を進めます。
- ◆「クールエナジー」を合言葉に地球温暖化防止のためのエネルギー意識を高めます。

市長の事例発表より

省エネなどに対する市の取り組み

【狹山市役所環境・リサイクル推進委員会】

平成8年6月に市職員84名で設置し、冷暖房器具の温度設定の適正化、昼休みや時間外の消灯、OA機器のこまめなOFF化などで常に節電に努め、結果として市庁舎内の節電は平成7年度比12.3%を達成しました。金額では438万円、炭素計算によるCO₂排出量では22万2千kgの削減となります。現在も市内の全公共施設で実施しており、さらに節電効果を高めるために週2日の「ノー残業デー・ノーカーデー」の実施やアイドリングストップ運動、契約電力の変更(900kwから800kw



7月30日(木)、川越市民会館において全国23自治体の首長などが参加し、全国で初めての「節電(省エネ)・新エネルギー自治体サミット」が開催され、町田市長から、当市のユニークな活動についての発表がありました。

このサミットは地球環境を守るためのさまざまな取り組みを考えるために開催されたもので、大多数の自治体が進めている省エネルギーや節電のほかにも、風力や太陽光、ごみの焼却熱などを利用した最近特に注目されている新しいエネルギー活用方法が多数登場しました。このクリーンで安全な「新エネルギー」と省エネ・節電の取り組みを全国に広め、今以上に地球環境を思いやり、熱を帯びた地球を冷やすという意味で「クールエナジー宣言」を行いました。

へ)などの取り組みをしています。

●全国で3番目のリサイクル都市宣言

平成8年11月に実施しました。2010年にリサイクル率30%達成を目標に、行政・市民・企業が一体となった取り組みを行っています。

●建設予定の公共施設について

今後建設を予定している全ての公共施設で、環境面から十分な取り組みを行う方針を打ち出しました。一例では平成12年4月開校の新入間小学校があります。この学校は太陽、風、水をフル活用した施設で、県内で初めて国の「エコスクール」の指定を受けました。

介護保険Q&A

なぜ新たな保険制度が必要なのですか。

A 平成12年には65歳以上の人口が約2,200万人になると推計されています。それに比例して介護が必要なたも増え、その数は280万人、平成37年には520万人に達すると予想されています。高齢になるほど介護を必要とするかたの割合も増加し、80歳から84歳では4人に1人、85歳以上では2人に1人と見込まれています。また、介護をしているかたの50%以上が60歳以上で、高齢者が高齢者を介護することが問題となつていくほか、高齢者の子どもとの同居率も年々下がってきています。さらに女性の就業機会の増加など、もはや家族だけで要介護者を支えていくのは難しい状況にあります。そこで、社会的に介護を支える仕組みが不可欠になってきたのです。介護保険制度は、高齢者が介護を必要とする状態になつても自立した生活を送ることができるよう、高齢者の介護を社会的に支える仕組みです。

●問い合わせ

高齢者福祉課へ内線164